



フツーなわたしが、  
だれかのスペシャルになる。

座談会 中学生×親×福祉施設職員

# 社会を支える 福祉のお仕事

福祉のお仕事紹介や福祉のこころを育む福祉教育を推進している徳島県福祉人材センター アイネットは、県内の小中学生を対象に「社会を支える福祉のお仕事作文」を募集しました。そして、たくさんの人に福祉のことを知ってもらいたいとの想いから、作文を応募してくれた徳島市上八万中学校2年の木本 晶子さんと彼女のお母さん、徳島県社会福祉法人経営者協議会に所属する福祉施設の職員2名による座談会を企画し、1月31日に開催しました。



座談会企画運営  
徳島県福祉人材センター  
アイネット  
吉田 貴史さん

親御さんゲスト  
木本 晶子さん  
※ 晶子さんのお母さん

中学生ゲスト  
徳島市上八万中学校  
2年  
木本 晶子さん

福祉施設ゲスト  
阿波老人ホーム 仙寿園  
中川 美奈さん  
(介護士・ショートステイ担当)

福祉施設ゲスト  
ふらっとKOKUFU  
ワーク&デイ ラクリエ  
松岡 陽子さん 外国  
(生活介護主任、  
サービス管理責任者)

—— 木本さん、「社会を支える福祉のお仕事作文」に応募しようと思ったきっかけは何ですか？



**木本 晶子さん** 私が小さい頃におじいちゃんが脳梗塞になってしまい、体を自由に動かすことができなくなりました。ずっと辛そうな顔をしていましたが、デイサービスに行くようになってからは、すごく楽しそうでした。「今日何したの？」って聞くと、「カラオケをしたよ」など楽しい話題がいっぱい出てきて。そんな、おじいちゃんを元気にしてくれた人たちの仕事が気になっていたので、調べて書いてみようと思いました。

**木本 晶子さん** 娘の晶子がお話したのは、私の父のことです。体に障がいがあり、また入院中に別の病気も見つかりましたが、自宅で過ごすことにしました。紹介いただいたデイサービスを利用し始めると、だんだんと顔色が良くなり、新しい友達もできて、すごく元気になったんです。きっと自宅だけでは、ただ寝て過ごして、孫が遊びに来たときにちょっと話をするくらいしかなかったと思います。デイサービスを利用したことで、父は楽しく最期を迎えられたと、家族みんなが感謝しています。

—— それでは、福祉施設職員の松岡さん、中川さん、ご自身の仕事について教えてください。

**中川 美奈さん** 私が勤務する「阿波老人ホーム 仙寿園」は、入所の特別養護老人ホームやショートステイと、通所のデイサービスを運営しています。私はそこで、介護サービスが必要な方に短期間入所いただくショートステイの担当をしています。ご利用者の食事や排泄、入浴などに関わらせていただきますが、ただお手伝いをさせていただくのではなく、できることをこれからも継続していただけるように、心身の機能の維持・向上やご家族の身体的及び精神的負担の軽減に繋がる介護を大切にしています。木本さんのお話にも出てきたカラオケなどのレクリエーションも、ご利用者が楽しんでいただけるように取り入れています。私の施設のご利用者様も、木本さんのお爺さまのように楽しんでくださっていたらうれしいです。

**松岡 陽子さん** 私は知的障がいの方の生活介護サービスを提供する「ふらっとKOKUFUワーク&デイ ラクリエ」で勤務しています。自宅で生活されているご利用者が、日中、施設に来られて、レクリエーションをして過ごしたり、理学療法士など専門職が身体機能や生活能力を確認して一緒に体を動かしたり、いろいろな活動をして過ごします。

就労を支援する部署では、畑で野菜を作って販売したり、公共施設に行ってお掃除をしたりするなど、個々の特性に応じた機会をサポートしています。

—— お母さんに質問です。娘さんの作文を読んでどう思いましたか？

**木本 晶子さん** 父のことを通じて、娘が福祉に興味を持ってきていたんだな、うれしいな、と改めて思いました。

—— それでは、お母さんが思われている「福祉のお仕事」のイメージについて教えてください。

**木本 晶子さん** 本当にすみませんが、きつい、汚いかなど。実は、若い頃にヘルパーの資格を目指したことがあって、病院での研修に行りましたが、おむつ交換はできないと思ってしまいました。

**松岡 陽子さん** 確かに、汚いというイメージがありますよね。トイレのお手伝いはどうしてもついてくるものです。でも、そういう一面だけではなく、木本さんのお爺さまのお話のように、楽しく過ごしていただけるよう支援し、一緒に楽しさを共有できるという喜びもあるんです。トイレのお手伝いを初めてされたときは、確かに衝撃が大きかったと思います。トイレの排泄介助は身体介護の上では重要で、欠かすことのできないものである一方、介護を受ける方や、ご家族にとっても大きな負担となることもあります。初めての場合、大変で驚かれたことは理解できます。



—— 中川さん、松岡さん、社会で必要とされている「福祉」について、最近の仕事の現場について教えてください。

中川 美奈さん 福祉の仕事は、どうしてもきついというイメージや、狭い世界の仕事だと思われがちですが、視野を広げるとクリエイティブな仕事だと思います。日常生活のお手伝いをするだけでなく、その方の人生がどれだけ明るくなるのか、それも私たちの仕事です。だからこそ、その方と向き合っ

て、理解して、寄り添うことを大切にしています。最近では介護者の負担軽減のため、介護ロボットの開発や、ベッドから車イスなどへの移乗がラクにできる機器が普及するなどしてきていますので、より働きやすくなると期待しています。また、福祉・介護ニーズはますます多様化・高度化し、福祉・介護人材の質・量ともに一層の充実が求められていますが、今は人手が足りない状況です。国をあげて、人材確保の取り組みを進めています。

**松岡 陽子さん** 福祉の仕事は、女性がすごく活躍しやすい職場だと思います。私の職場も女性が多く、小さい子どもを持つ職員もたくさんいます。子どもが熱を出した際に看護休暇を有給で取れる制度や、子どものお世話などで朝早く出勤するのが難しい際に勤務時間を短くする時短勤務制度というのもあるとあって、安心して仕事を続けられると思います。

—— 仕事のやりがいを教えてください。

**松岡 陽子さん** 私は、職員がご利用者様と一緒に楽しく暮らすことを大切にしています。一緒に楽しめていることを感じた瞬間、さらにはご利用者様が支援によって少しずつ自信をもったり、表情が明るくなって笑顔が増えたりして、良い方向に変

わったことを感じた瞬間、そんなときに喜びややりがいを感じます。

**中川 美奈さん** 施設では長い時間、ご利用者様と一緒に過ごしていて、ありふれた場面で「ありがとう」と言ってもらえます。素直にうれしいですし、この仕事をしていて良かったと思う瞬間です。また、様々な体験を積み重ねてきた人生の大先輩からお話を聞かせていただくと勉強になります。そんなところでもやりがいを感じています。



—— 職員さんの話を聞いて、「福祉のお仕事」のイメージで何か変化はありましたか？

**木本 晶子さん** 確かに、私たちが知らない様々なお話を人生の先輩方から聞けるのは、楽しみの一つだなど、共感できました。きついことばかりでないことがよくわかりました。

**木本 晶子さん** 福祉の仕事をしている人は大変というイメージが強かったですが、もちろん、きつい面もあると思いますが、それが吹き飛ばくらい楽しい面もたくさんあるんだなと思いました。そのことが一番心に残っています。

—— みなさん、ありがとうございます。

「社会を支える福祉のお仕事作文」をホームページで公開中！  
座談会に協力してくれた木本 晶子さんはじめ、徳島県内の小中学生から寄せられた「社会を支える福祉のお仕事作文」。多数ご応募いただいた中から、一部をホームページに掲載しています。ぜひ一読ください。



徳島県福祉人材センター  
アイネット

福祉のお仕事探しをサポート  
徳島県福祉人材センターアイネット

徳島市中昭町1-2 県立総合福祉センター3F TEL:088-625-2040

広告